



優柔 不断 物語

自慢ではないが、どちらかというと私は優柔不断で、信念の力もあまり強いほうではない。クズ入れにゴミをまとめて投げ捨てるといのはだれでもやっていることであろうが、結婚して半年、いまだになかなか入らない。10回試みて1回入れれば良いほうであろう。私の運動神経が極度に鈍いとも思わない。高校時代、バスケットボールは私の数ある得意種目の一つであったし、だいたい、結婚前は今より距離があっても自分でほめたくなるほどよく入った。それが2メートルもないところなのに入らない。その理由がこの間ようやくわかった。結婚したばかりのころ、新しい環境のせいで距離感がつかめずたびたび失敗していたが、それを見ていた妻は、私には能力がないのだと信じ込んでしまったらしい。そして私がゴミを投げようとする「入るはずがない。ほらやっばり！」と心の中でひそかに邪魔をしては楽しんでいたらしいのである。夫を信じない妻も妻だが、妻の信念に太刀打ちできない夫もふがいない。とにかく私

今年も現れたUFO

青森県

大久保千秋

去る10月9日の総会終了後、8人で皇居をぐるりとまわって(遠まわりになる)夕食会会場に向かっている途中、皇居前広場でUFOを目撃しました。ただし8人が目撃したのではなく、非常に残念ながら自分だけが偶然見つけました。雲の向こうに2、3の白銀色に光る発光体を見つけたのですが、そのときは「あれ、あれはなんだろう?」と思っただけでしたが、「円盤かな? 円盤だったらハッキリ(見えるように)現れて下さい」

ささやかな信念でも…

仙台市 安藤澄雄

の信念とはそんなものである。

あわや遅刻物語

そんな私でも「他人に迷惑をかけたくない」ということと、「自分はだんだん幸せになる」という、ある種の確信に似た気持ちだけは一人前に持ち合わせている。だから仕事に遅刻するなどというのはもってのほかであり、常に気をつけている。が、この前はヒヤッとした。

私はバスで通勤しているが、バスというのはなかなか時刻表通りに来ない。その日は20分も遅れて、もうタクシーに乗ろうかと思ったときにようやく着いた。しかしこのままいつものペースで行けば、間違いなく遅刻するだろう。やっぱりタクシーにすればよかった。しかし今さ

と思い直しましたら、皇居前広場の所にある木と木の間に見えるように現れて下さいました。その木と木の間には雲がなくハッキリと見えました。目撃時間は2、3秒です。なお、カメラを持っていなかったので写真に撮ることはできませんでした。海外でUFOを見たことはありましたが、日本では初めてです。なお、10月10日の都内観光にも新宿でUFOが出現して、四国の伊藤氏が双眼鏡で確認されたそうです。

らどうしようもない。私は心を決めた。せつかくGAP会員をやっているのだから信念を応用してみることにした。夕方5時から仕事なのだが、いつものように15分前に着くのはムリだと判断し、とりあえず16時56分にタイムカードを押したイメージを描くことにした。「56分。56分……」。しかし、目を閉じて「56」を描いているのに、なぜ

か「54」が浮かんでくる。私は56分に着けば十分なのだが、どうしても「54」と出る。それならば54分に着くのかもかもしれないと思いつつ、あとは成り行きにまかせて外を見ていたら、驚いたことにバスはほとんど停車せずに走っている。信号も青ばかりだ。いつものバス停に着いた。時計を見る。51分だ。歩いても5時には着くだろうし、1分ぐらいの遅刻は大目に見てもらえる。しかし私は走った。それが信念を応用した者の義務だと思った。間に合う。ありがとう! 運転手さん、ありがとう。信号機、ありがとう。バス、ありがとう。タイヤ、ありがとう。こんなささやかな信念を实践してくれたみんな、ありがとう! 階段を駆け上がる。タイムカードをさし込む。「16時54分」

最高の日本総会

日本GAP

1983年
10月9日

初の代表者会

今年は総会に先立って、日本GAP初の試みである「全国支部代表者会」が企画された。10月8日、東京文化会館に会した35名(含副代表格者・本部役員)は、遠藤昭則氏(千葉県)の言葉を借りれば「全国に点在する高貴な光が1点に集中し、まるで太陽のように輝いているよう」に思われた。

このときの全員の高揚感が翌日の総会に大きな影響を与えたと思われる。その証拠に、開催中の参加者の集中度は相当なものであったし、夕食会は今まで以上になごやかなふんいきを感じることができた。

映画「ベン・ハー」を見て

さて、総会の内容を報告するにはいくらスペースをもらっても足りないので、午後の部で上

映された映画「ベン・ハー」を見ての清水敏恵さん(山形県)の感想をご紹介します。なお、これは電話インタビューをもとにしたことをお断りしておく。

「私はこの映画を見るのは4度目ですが、8月のエルサレムの旅に行ってきたので今回はとても身近に感じました。特に現地ロケーションの部分は何か所があり、そのなかには実際に見学した場所もありましたから大変懐かしくなりました。内容については、私はこの映画の主題はイエスにあったのではないかと思います。はっきりとは画面に出てこないのに、彼を取りまく人々の演技によって十分にイエスを感じさせます。戦車競争の場面も確かに面白いでしょうが、私は、ベン・ハーを助けたいイエス、司令官を救ったベン・ハーを通じて「与える」ことを考えさせられました(A)

出会い、 の中で



講演録
連載第3回

千葉県船橋市 **山口緑**

子供は正直

この辺で教員として1年間子供たちと接して感じたいいくつかのことを述べたいと思います。

私は最初から1年生を担任することになりました。生まれて6、7年しか経過していない子供たちは自分にたいして実に正直に生きています。好きなものや興味あるものにはすぐに飛びついていきますし、つまらないことには耳を貸そうともしません。その意味では実に明暗がはっきりしており、印象をそのまま表現していると言ってもよいかもしれませぬ。

ですから例えば私がつまらな

い授業をしたり、退屈な話をしても全然受けつけず、いつのまにか堂々と席を立てて別の子とケンカを始めてみたり、廊下を放浪したりしています。

それにたいして私も忍耐に限界を感じたときは本気で怒り、何とか席に戻そうとします。しかし現代っ子は、先生に敬意を表することか「先生はかわいいものだ」という認識はまるでないらしく、こちらの注意にたいして、まっ向から反撃してきます。1対1ならばこちらにも勝ち目がありますが、10人も20人も相手にすると、その結果したパワーにたいして私はしっほを巻いて逃げるしかありません。これはものすごく疲れることで

あり、声もかすれ、子供たちが引きあげた後は、ぐったりとしてしまいます。

まだまだ未熟

私はつくづく自分の忍耐のなさを思いました。就職する前は久保田先生の助手としてGAPのお手伝いをしていましたから自分では宇宙哲学にたいする理解力も高まり、自分のものにしてしまっただけと思っていました。しかし、この地球上の人間と徹底的に接触することによって、自分が非常に短気で、怒りの想念を抑えきれない人間であることを知らされました。そして私の職場で宇宙哲学を実践していくのに本当に必要なものは、頭の中だけで理解された哲学ではなく、不屈の信念と忍耐なのだ気づいたのです。(つづく)



結婚しました!

去る10月16日、千葉県習志野市の遠藤昭則さんと三重県員弁郡の池谷由貴子さんは、ちば共済会館にてめでたくも美しく挙式を挙行された。披露宴には会長をはじめ30名に及ぶGAP会員も列席し、お二人を祝福の想念で包んだ。めでたしめでたし。

結婚します!

きたる11月13日、神奈川県横須賀市の千田光明さんと山形県新庄市の柴田文子さんは、新庄市若葉町2-4(☎0232-2-1162)ウェディング・パレス高砂で挙式を挙行される。幣にほほ笑みを絶やすことのないお二人が一緒に生活すれば、本当に宇宙的な家庭になること間違いなし!

第5回 日本GAP 仙台・山形合同支部大会 日程決定!

来年も仙台・山形支部は合同で支部大会を開催することに決まりました。

早いもので、仙台支部と山形支部が合同で大会を開くようになってから来年で5回目になります。その間、笠原代表は妻子持ちになってしまし、清水代

表もチャームな奥さんを迎えてきたりするし、みーんな大なり小なり変化しています。しかし、今も変わりない、大宇宙に向けた情熱が皆様をお迎えします。来年も・来年こそ仙台へ!

◎とき: 1984年6月24日(日)

◎ところ: 未定(仙台市内)

日本GAP 仙台支部 月例研究会のご案内

あなたは今、幸せですか? それとも悩んでいますか? 幸せな人も悩める人も、仙台支部月例会に来てみて下さい。あなたの幸せを少し分けて下さい。あなたの悩みをみんなで分かち合いましょう。あなたは私。私はあなた。一人ではできないことも、大勢の力が集まれば大きく発展するはず。有名な言葉があるじゃないですか——「赤信号、みんなで渡れば怖くない」

◎日時: 毎月第4日曜日 13時10分~16時20分
◎会場: 仙台市市民会館会議室
◎内容: アダムスキー氏のデキストを解説した会長の講義テープ公開、他。

※11月は第3日曜(20日)、来年1月は会場のみ変更(未定)。
※本年12月(25日)は月例会終了後、クリスマスパーティーを開催。清水正氏撮影のエルサレム旅行写真を映写予定。

後記
ほどです。

◎皆様、いかがお過ごしでしょうか。10月は総会のために月例会を開きませんでしたから、総会会場でお目にかからなかった仙台支部の方々とは久しくお会いしていないような気がして、11月20日の月例会が待ち遠しい

葦原

XXXX 忘却とは XXXXX 笠原弘可

最近とみに忘れっぽい。私の忘れっぽいのは今に始まったことではないが、この間はデパートに買い物行って何を買いにきたか忘れた。仕方がないのでトイレを借りて帰ってきた。うちの奥さんにちょいちょい用を頼まれるが、忘れるのが多くて最近期待してないようだ。忘れずに用を済ますと大変はめられる。「よくぞ忘れなかった」という具合だ。うちの奥さんにしても、出掛けるとき、よく財布を忘れるので威張れるものではない。先日、電車ですられたと大騒ぎして、キャッシュカードの通用停止までした。何のことはない、引き出しの奥に財布は鎮座していた/我が夫婦生活は忘却によって成り立っていると言えそうだ。よくけんかするが、後日は笑い話になっている。その当時のイガミ合う想念は消えている。地球人はあまりに頭が良すぎるのだろうか? 過去の遺恨は決して精算しようとしな。歴史は繰り返すと言うが、繰り返すのは忘れないからだ。妙な恨みは忘れずに、過去世の記憶などは簡単に忘れてしまう/生活の中には忘れてしまった方がよいものが多い。毎日を白紙の心で過ごすならば新鮮この上ないことだろう。言ってる本人もそううまくはいかないが、これは可能なことだ。眼でなくて、意識で見ることが出来れば可能だろう。長年、アダムスキーの哲学を学んできて思うことだが、結局は「意識をもって見る」ことに尽きるような気がする/尽きてしまっは次回から書くことが無くなってしまおうので、これも忘れることにする。ア氏は忘れる技術の達人だったそうだが、これだけは私も負けない自信がある。